

令和6度 昭島市立清泉中学校
美術 年間指導計画、評価規準〔第1学年〕

学期	月	時数	題材名と内容	単元のねらい	観点別評価規準(主たるもの)		
					知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
1	4	1	オリエンテーション	自身の内面にある美しさに対する感情に関心を持ち、自己の発見と美意識と美術に対する関心を持つ。	小学校で得た知識を思い出し、美術科とは何かを考えようとしている。	美術分野についての考察を深め、自分の身近にある美しいと思うものを言葉で表現しようとしている。	自分の考える美しさとは何かを考え、自分が今まで身につけたものの中から、自分らしい美術を見つけるとしている。クラスメイトの発想に耳を傾け、関心を示そうとしている。
	4 5	10	表紙制作	今までの学校生活で得た知識を工夫して自分らしく、学習に使う道具としてのファイルの表紙を制作する。	小学校の図画工作と自身の経験から得た知識と技術を活用し、美術科の表紙として機能するデザインを制作している。	自分らしいモチーフを選択し、色や形を駆使した表紙のレイアウトを構成し、デザインしている。	美術という科目において、自分が使う教材であることを前提とした表紙を工夫して制作しようとしている。
	5 6	4	形と色	身の回りには様々な形や色があり、そこから受ける印象や表現について学ぶ。 色鉛筆と絵具の基本的な使い方を学び効果的に使うことができるようになる。	色にはそれぞれの効果や役割があり、その使い分けと色彩学について理解しようとしている。 色鉛筆や絵の具等、画材の使い方を理解し、効果的に塗ろうとしている。	色の持つ働きと、色相環における働きを意識しながら、それぞれの色の混色を試行錯誤して見つけ出そうとしている。	人それぞれのものの見え方の違い、自分に見えている色という概念について考察し、色相環の形にしようと工夫している。
	6 7	2	鑑賞	美術史という学問について学習し、歴史上の人物と美術との関わりについて考察する。キリスト教絵画から近現代まで。	美術史の年表から自分の興味のある時代とその時代の美術史に関連する人物を選び、自ら調査することができる。	人物についてわかりやすくまとめようとしている。美術史上の人物に関連する事柄、作品等の表現を工夫し、美しく表現されている。	美術の歴史に興味を持ち、積極的に調査しようとしている。他の生徒の興味関心にも目を向け、耳を傾けている。

	9 10 11	10	光の彫刻	身の回りにある透明の素材を見つけ、個人制作オブジェを学級ごとにレイアウトして集団で一つの作品を作る。日常の中に潜む美しさ、自然と、他者との融合から得られる美しさを見つける。	透明の素材を探し、見つけようとしている。透明の素材の扱い方を工夫し、作品として成り立つように造形を作り出そうとしている。	身の回りにあるものの中に美しさを見つけ、固定概念にとらわれず自分の作品を工夫して制作しようとしている。	柔軟な発想でさまざまな素材を工夫して組み合わせようとしている。
2	11 12	5	レタリング	基本的な活字体の明朝体とゴシック体を学習し、拡大して完全に模写をする。	字体、フォントの役割と意味について理解し、明朝体とゴシック体の特徴を学習し、見本を見て書こうとしている。	人間が文字を作り、字体が多岐にわたる意味に思いを馳せて適切な字体を選択している。見本を見て背角に書き写そうとしている。	対象を細かく観察して正確に文字の形をとろうとしている。
	12	4	鑑賞	日本の伝統文化に親しむ。工芸品や日本絵画について学び、日本の文化について学習する	風神雷神図屏風を鑑賞し、よく観察して特徴を捉えて模写しようと工夫している。	日本らしさとは何か、日本の伝統文化や日本美術史の学習から自分なりの答えを導き出そうとしている。	今、自分が暮らしている場所がどのような文化をもって成立してきたのかということに思いを馳せ、興味関心を示そうとしている。
3	1 2 3	10	絵文字	デザインされた文字を鑑賞して、漢字に含まれた意味を絵で表現する。	漢字に含まれた意味を絵で表現しながら漢字としても読むことのできる絵文字を、効果的に表現できる。	構成や色の塗り方などを作品の内容を考えて工夫できる。	より良い作品にする向上心と意欲を持って相談に来ることができる。 色の塗り方を工夫しより合理的にするように考えることができる。
		45	評価方法	・作品 ・定期テスト	・授業、実習態度 ・作品 ・鑑賞プリント ・ワークシート ・定期テスト	・授業、実習態度 ・ワークシート ・提出物	